

# 2022年度（第19期）事業計画書

（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

特定非営利活動法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会

## 2022年度 事業実施の方針

2022年度の事業実施方針は以下のとおりである。

- 小規模農民の女性リーダーの育成を軸に、インド・ウッタラプラデシュ州（U.P. 州）プラヤグラージ県での事業を継続しながら、ウッタラカンド州（U.K. 州）で子どもの教育と農村開発事業を行っている NGO・Mussoorie Gramin Vikas Samiti（MGVS）をカウンターパートとし、北インドの山岳地帯での大豆関連事業を開始する。大豆栽培の普及は北インドの平地と山岳地帯で行われ、その大豆を使用した豆腐の製造、地元および都市での販売を本格的に行う。
- 農村におけるモリンガ栽培は、主に U.P. 州で行い、その葉を乾燥粉末に加工し、インド国内および日本においてモリンガ関連商品の販売を拡大する。
- AVS の女性が中心となり行っている農村女性のための縫製および手工芸品事業の活動を支援する。この事業によって生み出される関連製品の販売促進、市場開拓を行う。
- アラハバード有機農業組合の支援は、主にマーケティングを中心に自立促進のための支援活動を行う。アーシャ学校は、環境が許せば、教師と生徒のための特別教育活動の支援を行う。農村女性普及員、グループリーダーの養成を継続し、持続可能な活動となるように尽力する。
- JICA 草の根技術協力事業（草の根パートナー型）の資金、民間助成団体からの助成金、会費・寄付金、国内の事業収益を用い、各事業の目的、目標に沿って活動を行う。
- 特定非営利活動を持続的に発展させる自立した基盤を構築するため、広報活動の強化により認知度向上を図り、会員数および寄付の増強に努めるとともに、日本およびインド国内において販売活動を拡充する。

上記の項目を念頭に置き、今年度における基本方針とする。

## I. 特定非営利活動に係る事業

### 1. 農村開発・農業開発支援事業

#### 持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

##### 1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

- コロナ感染拡大で売り上げが落ち込んでいるアラハバード有機農業組合（AOAC）の立て直しを行うために、加工食品の質の向上と販路拡大のための支援を行う。インドの大都市への販売のみならず、地元での農作物の販売促進のための支援活動を行う。
- 農村女性による NGO アーシャ ビカス セワ サミティ（AVSS）が行ってきた家庭菜園、モリンガ、大豆、緑黄色野菜栽培とそれらの加工、販売、及び農作物栽培のための小規模生産グループ設立支援は、AOAC において継続できるように協力・支援を行う。

- 農村女性による NGO アーシャ ビカス セワ サミティ (AVSS) は、縫製部門のアーシャ ビカス シャクティ (AVS) が製作する手工芸品のデザイン及び縫製技術の指導、新製品の開発、販売促進の支援を行う。

## 2. 人材育成支援事業

### 2-1 持続可能な農業・農村開発コース 運営支援および研修所の環境向上

- 2019 年まで行われていた農村リーダーのための約 9 カ月間の持続可能な農業農村開発コース (SCSAD) は昨年同様コロナ禍の影響等で中止とする。
- U. K. 州の山岳地帯での大豆関連事業を開始するにあたり、現地担当スタッフおよび農村フィールドアシスタントの研修をマキノスクールにて実施する。その支援、協力、専門家派遣を行う。

### 2-2 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

- アーシャ学校マエダ校の支援を継続する。主に、奨学金の提供と特別学級、特に、児童の保健教育、環境教育、農業教育、美術教育などの支援を行う。

### 2-3 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

- 農村女性の収入向上のための事業として、マエダ村とハルディ村にある農村改善センターで行われる基礎裁縫クラス(2 か月間)の研修を支援する。また、フェアトレードで扱う手工芸品をアップグレードするため、プロフェッショナル研修コース(通年)を支援する。日本のデザイン及び縫製の専門家、現地の縫製の専門家の指導を受けて商品開発を行う。
- 手工芸品を通して農村女性のエンパワーメントを行っている団体への研修旅行を実施し、農村女性の学びの環境を広げる。
- 日本及びインドでのマーケティングを強化し、持続的に販売できる商品の開発を目指す。この活動は、3 年目の最終年度として、アジア生協協力基金より助成金を受けて実施する。

### 2-4 農村保健衛生改善支援事業

- 農村シニア保健ボランティア (SVHV) を中心としたモリング栽培の普及、モリングの葉の粉末加工による農村住民の栄養向上、農村女性の収入向上・組織強化を図る活動を支援する。活動資金は、SVHV が製造する豆腐やモリング葉粉末の販売によって賄うことができるように助言活動を行うとともに、インド国内、日本での販売促進により支援する。

### 2-5 農村女性所得創出・地位向上支援事業

- U. P. 州では、農村普及ボランティア (VEV) を中心とした大豆栽培の普及による農村女性の組織強化、所得創出を図る活動を実施する。また、U. K. 州の NGO・MGVS と協力し、当地の山岳地帯において、大豆栽培の普及による農村女性の組織強化、所得創出を図る活動を実施する。
- U. P. 州および U. K. 州の活動を通して、大豆生産技術の向上を図り、大豆生産量を必要分確保する。また、豆腐普及と販売のために、農村や市街地、都市部において、大豆の栄養価と豆腐料理を紹介する豆腐料理セミナーを開催する。さらに、農村の料理請負人のための豆腐料理講習会も継続して行う。このために、大豆の栄養・調理に関する専門家を派遣する。
- これらの活動は、JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)より資金を受けて実施する。

### 3. 事業を推進するための調査研究、及び啓発・広報事業

#### 3-1 ワークキャンプ・スタディツアー開催、訪問者受入

インターンシップ研修プログラムは、2023年3月上旬に2週間程度開催する。主に日本人大学生を中心に公募し、農村開発、農業、食品加工・販売等の研修を実施する。

#### 3-2 会報の発行

アーシャの活動、マキノスクールの活動、U.K.州のNGO・MGVSとの共同プロジェクト活動の内容を会員、支援者に理解していただくために、年3回（4月、8月、12月）会報を発行する。

#### 3-3 広報活動の拡充

- ホームページ、ブログ、Facebook等による広報活動の拡充を図り、当会の活動をより広く知ってもらい、当会の認知度向上、会員数と寄付の増強を狙う。
- 企業のCSR活動へのアプローチを開始し、企業から寄付を募集する。

#### 3-4 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

コロナ感染拡大防止に努めて、セミナー、講演等を企画・実施する。

#### 3-5 次期事業形成調査

- インドにおける製造・販売事業の資金面・信用面、事業の許認可を強化するため、インド国内および日本での販売活動を拡充する。必要な日本での輸入、販売に関する情報を収集する。
- 日本における海外農業人材の受入研修について、農業関係者とその実現について議論を行う。

### 4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

コロナ感染のさらなる拡大、新たに災害や紛争などが発生した場合は、活動可能な範囲で迅速な対応を実施する。

## II. その他の事業

### 1. バザー・チャリティ・販売事業

- 特定非営利活動を持続的に発展させる自立した基盤を構築するため、インド国内および日本において販売活動を拡充する。販売網や市場マーケティングの強化を段階的に行う。
- インド国内では、地元のマスクやエプロン等の販売、デリーの常設販売、委託販売の促進を支援し、主要都市の顧客開拓を目指す。さらに、インド全国を対象に自前および委託、SNSを通じた通信販売の拡充を支援する。販売促進のため、デリーやその近郊で開催される祭りやイベントに参加し、出店販売を行うとともに、当会の活動の認知度向上に努める。
- 日本では、東京、千葉、岐阜、栃木の委託販売、栃木県内での出炭販売、オンライン販売により販売を促進する。栃木県内では、積極的な出店し、インドの農村事情と当会の活動の認知度向上を図るとともに、フェアトレード商品の販売を行う。さらに、新規の店舗を開拓する。
- ネットショップ「ASHA STORE」、自前および委託、SNSを通じた通信販売も拡充する。

## 2. 食品加工事業

- 日本においてモリンガ関連商品の販売活動を拡充するため、インドからモリンガ粉末とヒマラヤ岩塩の供給を受けて、モリンガパウダー、モリンガ塩、ヒマラヤ岩塩など、販売形態に合わせたブレンド、リパック、ラベリングなどの加工事業を行う。

## 3. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

以下の活動については、コロナ感染状況を勘案し、具体的な計画を立てて実施する。

- アーシャ学校の生徒の絵画、農村開発や人材育成の支援活動の写真などを収集し、絵画展、写真展、パネル展示を通してインドの農村事情・食文化や国際協力の必要性・あり方、本会の活動を広く伝える事業を行う。

(1) Ⅲ. 事業の実施に関する事項 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村住民30万人	906
2.人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	研修生4名、農村住民1,000名	100
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	2名	農村児童100人	20
	③裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村女性1,000人	1,050
	④農村保健衛生改善支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	6名	農村住民30万人	170
	⑤農村女性所得創出・地位向上支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区、ウッタラカンド州	7名	農村住民30万人	6,286
3.事業を推進するための調査研究、及び啓発・広報事業	①ワークキャンプ、スタディツアー・訪問者受入	年2回	日本	7名	日本300人	745
	②会報の発行	年3回	日本、インド	7名	日本、インド延べ1,000人	104
	③次期事業形成調査	随時	日本、インド	2名	日本、インド	50
4.災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	随時	日本、インド	7名	日本、インド	10
						9,441

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.バザー・チャリティ・販売事業	バザー出店、収入向上支援、調査、販売、新製品開発	通年	日本、インド	7名	日本、インド延べ1000人	1,142
2.食品加工事業	モリンガ粉末等の食品加工	随時	日本	2名	日本1000人	1,104
3.演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画展等実施	随時	日本	3名	日本200人	2
						2,248